



みずみどり

2022年 10月1日 第152号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894

バッタ広場の生き物たち

親子で観察会

草原にすむ虫などを調べ、虫が好きな環境を考えよう

いたばし水と緑の会は、ボランティアセンターの「夏ボラ2022」の事業として、昨年到现在、バッタ広場の虫しらべを実施しました。



きれいに草を刈り掃除された公園に生き物はすめません。会では生き物がすめる場所（ビオトープ）をつくり、守る活動をしています。夏は、虫たちはもっとも活動的で元気です。そこでこの時期に昆虫が好きなボランティア親子と一緒にバッタ広場にどんな生き物が生きているか調査することにしました。赤塚城址の

豊かな自然にふれ、自然の大切さを理解してもらうことも目的です。

生き物しらべは、7月と8月に2回実施。

第1回 7月23日（土）

参加者親子で18人

第2回 8月27日（土）

参加者親子で7人

なにしろ猛暑です。虫しらべの目的やルールは事前に連絡し、説明は最小限にして調査を開始。



- ・草むらに分け入るのは注意。ハチの巣を見たことがあります。ササの葉で手を切ったりする。ハチは手で払ったりせず、知らんぷりする。
- ・採集した虫はプラ容器に入れて、涼しい木陰に集合、持ち寄った虫をみんなで観察する。
- ・昆虫網、虫眼鏡、図鑑などがあると便利
- ・ひとつずつみんなでじっくり観察。図鑑を見せてもらったり、詳しい人が教えてくれたり。
- ・虫の名前を記録します。
- ・採集した虫はバッタ広場に返します。公園内で動植物は採取できません。

採集して観察した虫

7月23日（16種）

オオカマキリ幼8、ハラビロカマキリ幼1、ムネアカハラビロカマキリ1、クビキリギリス幼多、ナナホシテントウ、オジロアシナガゾウムシ、アカサシガメ幼、シマサシガメ幼、ショウリヨウバッタ、オンブバッタ、シロテンハナムグリ、キタキチョウ、ナミアゲハ、オカダンゴムシ、タマムシ翅、クサゲモ

8月27日（21種）

ショウリヨウバッタ4、オンブバッタ1、クビキリギリス幼7、ツチイナゴ幼2、イナゴ1、ナナホシテントウ1、アオドウガネ、コフキコガネ、シロテンハナムグリ2、キンケハラナガツチバチ、ナナホシテントウ、ヤマトシジミ4、アカボシゴマダラ幼、シオカラトンボ♂、シオカラトンボ♀、ウスバキトンボ、バナナムシ（ツマグロオオヨコバイ）、サツマノミダマシ、セミ（鳴き声アブラゼ、ヒグラシ、ツクツクボウシ）

つかまえたショウリヨウバッタ
スマホでカシャッ



ツチイナゴの幼虫



4cm位の大きな芋虫。
名前わかる人教えて



ダンゴムシつかまえたの

「あっ オオムラサキだ」

の声で、みんな注目。葉っぱと全く同じ色の幼虫。よく見つけたね。

オオムラサキは国蝶です。私は見たことがなく、板橋には生息していません。これはオオムラサキの幼虫に大変よく似ていますが、アカボシゴマダラの幼虫です。



アカボシゴマダラの幼虫は葉っぱの色と同じ色

外来生物

ムネアカハラビロカマキリ？

つかんでいるのでよく見えないけど、腹に赤っぽい線がある。私は見たことがないが、見せてもらった図鑑ではそれらしい。採集した彼は「外来生物だから駆除すべきなのか、外来生物も自然の一部だから放しているのか」とむずかしい問題提起。放してしまっただけで、観察用ボトルに入れて後でみんなの意見を聞いたらよかったかなと思ったりして・・・。



生き物の継続調査は大切です。調査には知識やスキルが求められます。私たちは昆虫の専門家ではなく、昆虫網は持っていても、採集は???という実力です。虫好きの区民（主力は子供）に参加してもらって調査ができるのはありがたいことです。立派な図鑑を持って来た人もいし、昆虫の知識はすごい。みんなが採集した虫をみんなで観察できるのがいいですね。

バッタ広場にカブトムシを採集するペットボトルのトラップが放置されていました。こういうことはしてほしくありません。参加したおかあさんから「昆虫採集しても虫はなくならないと思う」と言われました。でもね、虫はいくらでも湧いてくるわけではない、小さな場所で大勢が虫

をつかまえればいなくなると思います。カブトムシをみんなが見る前に持ち去られてがっかりしたこともありました。独り占めしないでみんなで観察できる平和なバッタ広場が私の願いです。



集まった虫をみんなで観察、図鑑で確認。そして虫の名前と数を記録しました。

日本各地の里山で生き物が激減しているという報道され、私たちもそれを感じています。そしてますます日常的に生き物を見たり触ったりする機会が減ってきています。

8月には外来種のカマキリはいましたが、オオカマキリやハラビロカマキリなどバッタ広場にいるはずのカマキリは採集できませんでした。虫は私たちのお楽しみの対象ではありません。トカゲや野鳥が食べ、生き物同士が関わりあって自然が成り立っています。

さて熱中症が心配で時間を短くして、虫たちの詳しい説明も不十分でしたが、人間のためだけではない公園—生き物の環境の大切さを伝えられたかしら。

観察用ボトルの活用、シオカラトンボのオスとメスや、バッタ類の比較観察などもっと虫たちを知り、好きになる工夫をしたいと思います。

今年は、ニリンソウの会の木村松夫さん、水と緑の会の伊丹さんにカメラをお願いし、活動の様子が伝わるレポートができて感謝しています（坂本 郁子）。



アメリカザリガニ問題 どうする？

アメリカザリガニの有害性が論じられ、近々規制されるだろうという状況の中で、7月1日、板橋区の有害生物対策の担当である自然保護係に相談に行きました。お忙しいということで普及啓発も含めて区が取り組むべき課題と考えられていない？ようでした。

いたばし水と緑の会は20年以上前から何度もザリガニ駆除に取り組み、効果が見られず、釣りの得意な先輩達も亡くなってギブアップ状態でした。5年ほど前、高価なトラップ（もんどり）を購入しました。これは数日間置きっ放しにできると聞きました。3本設置してもなぜか入るのは1本だけ。最初はよく捕獲できたが、だんだん捕獲数が減り、壊れて、一昨年新しく買ったプラスチックのトラップも不具合で、意欲も萎んでしまいました。愚痴を言ってもしかたがない。私は再度ザリガニとトンボ池の環境を見直し考えることにしました。さて、トラップをかけてもヘドロが堆積してトラップが浮いてしまい、網で掬うとヘドロばかり、粗い網に変えて掬っても網に残るのはヘドロばかり。山田さんが自前の網でやったけど、網の中ザリガニではなくヘドロ。ここ数年ヘドロ除去が不十分だったのでしょ。



そういうときにザリガニ釣りの小ノ澤さんに出会い、ザリガニ駆除の協力をお願いしました。

またフェンスに週2回「ザリガニ駆除します」という看板を付け、やる気を示しました。通りがかりの人からザリガニについての感想や質問もありました。



私は「アメリカザリガニ対策の手引き」を熟読し、週2回はトンボ池の草刈り・ヘドロ取り・ザリガニ捕獲の実践。釣りは名人にはかないません。

小ノ澤さんのザリガニ釣り・・・竿2本で釣る。半日で20匹以上のときもある（写真右）。

坂本・・・トラップ・塩ビ管を加工したトラップで 0匹～数匹、ザリガニ対策の手引きにある「しば漬け」も材料を変えてやってみたが成果は0、華々

しい成果はない。



トラップを2時間沈めて、多いときで5匹、少ないときは0～1、2匹。



7月28日～9月28日（2カ月間）の捕獲数

小ノ澤さん 270匹位

坂本 64匹

小ノ澤さんの釣り場は橋の右側です。270匹釣ってもまだいます。それがザリガニのおそろしいところ。

はじめてザリガニを釣って、ザリガニを観察

美術館側の浅い池、傍を通るとザリガニがぱっと逃げるのが見える。ウヨウヨいます。ここで腰をすえて釣ってみよう（写真下）。枝にスルメを付けたタコ糸を垂らす。水面から1mも離れていないので、蚊が刺しかゆくなってもがまんして置物のようにじっとしゃがんで待ちます。そばでシオカラトンボが産卵していても横目で見るだけ。



釣り糸を垂れていると、大きな赤いザリガニが「前にならえ」のようにハサミを掲げてゆっくりやって来ます—それに気づいた小さなザリガニはお尻からすっ飛ばすように逃げる。大きなザリガニは逃げたザリガニの後を追わない—ザリガニは大きなハサミがじゃまで獲物の追跡は苦手。つまり、いきなり出会わない限り、小さなザリガニは喰われることはない—やがて大きなザリガニはエサを見つけ食いつきます。そこへ別の大きなザリガニが来て2匹まとめて釣れたこともある。でも欲張って2

匹かかるのを待っていると、2匹ともスルメを放してケンカをして失敗することが多い。はじめて挑戦して8匹釣れた。2回目は10匹、その後、釣れたり釣れなかったりして全部で30匹。ザリガニは何でもたべると言われているが、動きが鈍いので追いかけてつかまえることはないようです。脱皮中のザリガニとか、死にかかった魚、すばしっこくないヤゴやオタマジャクシなどは食べられそう。

ヘドロを甘く見てはいけない

このところ雨が降った後も池にはプランクトンの膜ができています。普通は雨が降ると水はきれいになるのに。プランクトンは死んで池底に沈み、また新しいプランクトンが発生し、落ち葉や枯れ草も腐って、有機物が増えてヘドロとなり・・・池は浅くなり、こうして池は「湿地から陸地になる」と教科書に書いてあります。遷移と言います。

トンボ池もザリガニ対策だけでなく、ヘドロをどうにかしなければなりません。トンボ池をつくって数年後（かなり前）、エコポリの環境会議に応援してもらってヘドロを掻き出しバケツリレーで運び出しましたが重労働でした。今ではとてもできません。

今やっていることは、池の落ち葉（腐ってヘドロになる）除去すること、冬に水を抜いて乾かし池底のヘドロ混じりの土を畦に被せて手で叩いて畦を補強したりしています。泥の中で手を使っ

てやる作業はあまりおもしろくないけど、昔の棚田ではこうしていたと思います。私は3年前、泥に足を取られ足腰を痛めてしまい、池の中の作業はあまりできませんでしたが、リハビリと筋トレで痛みが軽くなったので、無理をしないヘドロ除去方法をいろいろ試しています。林内にヘドロ置き場をつくる、畦を土壌で補強し、その上にヘドロを積んで叩いて畦の補強も兼ねるなど・・・やってみなければわかりませんが、ヤゴの生存は当面は無視。

トンボ池のヘドロとザリガニどうしたらよいでしょう。教えてください方、応援して下さる方いませんか、野次馬も歓迎

自然はすごい、というオマケの話

死んだザリガニを埋めずにおいたら腐って臭い。そこへダンゴムシやシテムシの幼虫が来て、2日後には殻だけ残してなくなっていた。ザリガニの墓場はすぐカラスに見つかった。カラスは殻も残さず丸ごと食べてしまう。ポリ袋に入れたザリガニも袋を破って食べてしまう。自然界のゴミは自然界のお掃除やさんが片付けていました。自然は美しいものばかりではありませんが。

観察・活動記録（2022年8月20日～9月24日）

トンボ池・ため池 リスアカネ、シオカラトンボ、タマムシ、オオカマキリ、クビキリギリス、オンブバッタ、チャバネセセリ、モリチャバネゴキブリ、ジョロウグモ、シテムシ幼、モグラ塚
バッタ広場 ルリタテハ、コカマキリ、クビキリギリス、ショウリョウバッタ、オオウンモンクチバ、コムスジ、アミガサハゴロモ、ジョロウグモ、コガタコガネグモ、ノシメトンボ

バッタ広場の花



キンミズヒキ

きれいな黄色い花があちこちにたくさん咲いています。地下茎で増え、種でも増え、増えすぎです。花が咲き終わったら刈り取っています。



ヒメジソ（シソ科） イヌコウジュと見分けにくいとありましたが、葉の鋸歯と毛が少ないのでヒメジソのようです。今年は増えてきて、触れるといい香りがします。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894

坂本 090-4618-1295

1 赤塚城址自然観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

10月9日（日） 10:00～11:30

11月13日（日） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・手袋（軍手）、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

10月22日（土）10:00～11:30

11月26日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

4 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

11月6日（土）10:00～11:30

12月4日（日）10:00～11:30

5 赤塚公園どんぐりまつり 赤塚公園中央地区サービスセンター前

10月23日（日）10時～15時（雨天の場合は30日）

いたばし水と緑の会も出展します。

生き物と友だちになろう（展示）

赤塚の森で自然の宝物をさがそう（観察会10時、13時スタート）

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園/バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。